

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成28年2月12日

【四半期会計期間】 第120期第3四半期(自平成27年10月1日至平成27年12月31日)

【会社名】 富士フイルムホールディングス株式会社

【英訳名】 FUJIFILM Holdings Corporation

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 中嶋成博

【本店の所在の場所】 東京都港区西麻布二丁目26番30号  
(同所は登記上の本店所在地で実際の業務は「最寄りの連絡場所」で行っております。)

【電話番号】 03(6271)1111(大代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員 経営企画部 副部長 稲永滋信

【最寄りの連絡場所】 東京都港区赤坂九丁目7番3号

【電話番号】 03(6271)1111(大代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員 経営企画部 副部長 稲永滋信

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

## 第1【企業の概況】

## 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第119期 第3四半期 連結累計期間	第120期 第3四半期 連結累計期間	第119期
会計期間	自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日	自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日	自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日
売上高 (第3四半期連結会計期間) (百万円)	1,815,166 (632,272)	1,841,490 (615,426)	2,492,605
税金等調整前四半期 (当期)純利益 (百万円)	153,177	141,742	197,102
当社株主帰属四半期(当期) 純利益 (百万円) (第3四半期連結会計期間)	93,863 (53,312)	84,384 (37,438)	118,553
当社株主帰属四半期 (当期)包括利益 (百万円)	225,606	64,936	240,137
株主資本 (百万円)	2,234,747	2,158,614	2,232,714
純資産額 (百万円)	2,463,037	2,395,084	2,467,416
総資産額 (百万円)	3,540,175	3,468,901	3,556,569
1株当たり当社株主帰属四半 期(当期)純利益 (円) (第3四半期連結会計期間)	194.73 (110.59)	179.54 (81.38)	245.94
潜在株式調整後 1株当たり当社株主帰属 四半期(当期)純利益 (円)	194.15	178.95	245.18
株主資本比率 (%)	63.1	62.2	62.8
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	179,574	143,752	263,731
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	104,847	124,456	120,508
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	13,314	127,471	45,593
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	697,906	613,014	726,888

- (注) 1 当社の連結財務諸表は、米国で一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づき作成しております。
- 2 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。
- 3 売上高には、消費税等は含まれておりません。

## 2【事業の内容】

当社は、米国会計基準によって連結財務諸表を作成しており、「関係会社」については米国会計基準の定義に基づいて開示しております。「第2 事業の状況」においても同様であります。

当社グループ(当社、連結子会社及び持分法適用会社)は、「わたしたちは、先進・独自の技術をもって、最高品質の商品やサービスを提供する事により、社会の文化・科学・技術・産業の発展、健康増進、環境保持に貢献し、人々の生活の質のさらなる向上に寄与します。」との企業理念の下、イメージング ソリューション、インフォメーション ソリューション、ドキュメント ソリューションを提供し、社会とお客様に信頼されるグローバル企業を目指しております。

当第3四半期連結累計期間において、各事業部門に係る主な事業内容の変更はありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。  
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間の世界経済を概観すると、アジア新興国等において弱さがみられるものの、全体として緩やかな回復基調が継続しました。米国の景気は、個人消費を中心に回復が続きました。欧州では、英国で景気の回復が続いたことに加え、ユーロ圏の景気も緩やかな回復が続きました。アジアでは、中国の景気は緩やかに減速、全体でも弱い動きとなりました。日本においては、雇用・所得環境の改善が続く等、景気は緩やかな回復基調が継続しました。

当社グループは平成26年11月に策定した中期経営計画「VISION2016」(平成26年度～平成28年度)を達成すべく、「ヘルスケア」「高機能材料」「ドキュメント」の3事業分野を成長ドライバーとし、拡販活動や新製品の市場投入により、売上、シェア及び利益の拡大を進めています。また、その他の事業においてもビジネス規模と市場での優位性を維持するとともに、あらゆる企業活動において生産性向上と効率化を進め、全事業における収益性向上に向けた取り組みを加速しています。

当社グループの当第3四半期連結累計期間における連結売上高は、フォトイメージング事業、メディカルシステム事業、電子材料事業、グラフィックシステム事業、ドキュメント事業等で売上を伸ばし、1,841,490百万円(前年同期比1.5%増)となりました。国内売上高は721,584百万円(前年同期比1.6%減)、海外売上高は1,119,906百万円(前年同期比3.6%増)となりました。

営業利益は、各事業における収益性の改善等により、133,920百万円(前年同期比7.6%増)となりました。前第3四半期連結累計期間に(株)ジャパン・ティッシュ・エンジニアリングの連結子会社化による評価益21,224百万円を営業外収益に計上したため、税金等調整前四半期純利益は141,742百万円(前年同期比7.5%減)、当社株主帰属四半期純利益は84,384百万円(前年同期比10.1%減)となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

#### イメージング ソリューション部門

フォトイメージング事業では、インスタントカメラ“チェキ”シリーズや多種多様なチェキフィルム等、撮影したその場で写真プリントが楽しめるインスタントフォトシステムの販売が欧米を中心に大きく伸長しました。平成27年10月には、さらに幅広い顧客層を狙い、鮮やかなカラーとモダンでシンプルなデザインが特長の“チェキ”「instax mini 70」を発売し、ラインアップを強化しました。また、多くの写真データから良い写真を自動でレイアウトし1冊のアルバムにする「Year Album」や複数の写真を1枚にまとめてプリントする「シャッフルプリント」等の付加価値プリントビジネスが拡大したこと等により、売上が増加しました。

光学・電子映像事業の電子映像分野では、デジタルカメラの販売台数は減少したものの、平成27年6月に販売を開始した小型軽量ボディながら卓越した写真画質と快適な操作性を実現するミラーレスデジタルカメラ「FUJIFILM X-T10」等の高級機へのシフトがさらに進んだことや、アジア地域での拡販が進んだことにより、プレミアムデジタルカメラ「Xシリーズ」の販売が好調に推移しました。光学デバイス分野では、スマートフォン用カメラモジュールの売上が大幅に減少しました。今後、他社に先駆けて発売した4Kカメラ対応の放送用ズームレンズの拡販等により、売上拡大を図ります。

本部門の連結売上高は、フォトイメージング事業で売上を伸ばしたものの、光学・電子映像事業の売上が減少し、272,477百万円（前年同期比1.5%減）となりました。営業利益は、フォトイメージング事業の売上高の増加に伴う売上総利益の増加等により、26,495百万円（前年同期比52.2%増）となりました。

#### インフォメーション ソリューション部門

メディカルシステム事業では、医療ITシステム、内視鏡、超音波診断装置等の販売が好調に推移し、売上が増加しました。X線画像診断分野では、DR方式・カセット型デジタルX線画像診断装置「CALNEO（海外名称：D-EVO）」シリーズや、乳がん検査用デジタルX線撮影装置「AMULET」シリーズの販売が好調に推移しました。医療IT分野では、医療情報統合による診療支援のため、医用画像情報システム（PACS）を中心に診療分野での事業拡大を進めています。平成27年5月にはPACSの診断画像や各種動画等、病院内の各診療科が扱う広範な診療情報を効率的に管理・保管するアーカイブシステムを提供する米国医療ITシステムメーカーTeraMedica, Inc.を連結子会社化しました。当社の医療ITシステムと組み合わせ、今まで以上に効率的で、診断に寄与するソリューションを提案していきます。内視鏡分野では、CMOSセンサー搭載の高画質電子内視鏡や次世代内視鏡システム「LASEREO」等の販売が好調に推移しました。超音波診断分野では、ハイエンド超音波画像診断装置「X-Porte」の販売が北米を中心に好調に推移しました。

医薬品事業では、バイオ医薬品受託製造が好調に推移したこと等により、売上が増加しました。研究開発においては、抗がん剤やアルツハイマー型認知症治療薬等のパイプラインの開発を着実に推進しています。

再生医療事業では、iPS細胞の開発・製造の世界的なリーディングカンパニーである米国Cellular Dynamics International, Inc.の買収を平成27年5月に完了し、連結子会社化しました。さらに、平成27年10月には、国内でのiPS細胞の開発・製造・販売を行うために、セルラー・ダイナミクス・インターナショナル・ジャパン(株)を設立しました。平成26年12月に連結子会社化した(株)ジャパン・ティッシュ・エンジニアリングと共に、当社グループ内でのシナジーを発揮し、製品開発の加速、事業領域の拡大を進めていきます。

ライフサイエンス事業では、平成27年9月にリニューアルしたジェリー状美容液「アスタリフト ジェリー アクアリスタ」の販売が好調に推移し、売上が大幅に増加しました。またサプリメントの「メタバリアスリム」を機能性表示食品として平成27年12月にリニューアル発売しました。

フラットパネルディスプレイ材料事業では、パネル市況減速による生産調整の影響等により売上が減少しました。液晶テレビ向けの販売を維持しつつ、中小型ハイエンド品向けの拡販を押し進めるとともに、タッチパネル及びバックライト関連等新規分野への展開を積極的に行っています。

産業機材事業では、スマートフォン・タブレット・ノートPC等に搭載されるタッチパネル用センサーフィルム「エクスクリア」や太陽電池用バックシート等新規事業の販売が好調に推移したこと等により、売上が大幅に増加しました。

電子材料事業では、先端品のフォトレジスト及び現像液、処理剤等のフォトリソ周辺材料の販売が好調に推移し、売上が増加しました。平成27年12月には半導体関連の製造プロセス等で使用する溶剤を高純度で製造できる米国溶剤製造・販売会社 Ultra Pure Solutions, Inc. (UPS社)の買収を完了し、連結子会社化しました。UPS社の高純度溶剤を中心とした幅広い製品ラインアップ、製造設備、及び有力顧客基盤を獲得することで、電子材料事業をさらに拡大していきます。

記録メディア事業では、「BaFe(バリウムフェライト)磁性体」等の独自技術を使用したデータストレージ用磁気テープの販売が好調に推移したものの、業務用ビデオテープの総需要減少の影響を受け、売上が減少しました。世界中で生成されるデータ総容量が急激に増大する中、大容量データのバックアップ、アーカイブに使用される磁気テープメディア「LTO Ultrium規格」の第7世代に対応した「FUJIFILM LTO Ultrium7データカートリッジ」の販売を平成27年11月より開始しました。今後も独自技術によるテープ高容量化で業界をリードするとともに、データアーカイブサービス「d:ternity(ディターニティ)」のさらなる展開等により、長期保存分野への一層の高付加価値製品とサービスの提供を進め、売上拡大を図ります。

グラフィックシステム事業では、刷版分野において中国での景気減速・価格競争激化の影響を受けたものの、デジタルプリンティング機器や産業用インクジェットヘッドの販売が好調に推移し、売上が増加しました。今後も主力のCTPプレートにおいては、省資源ソリューションの提案によって差別化を図っていくと同時に、デジタルプリンティング機器や産業用インクジェットヘッドの更なる拡販により、事業ポートフォリオの転換を推進し、売上拡大を図ります。

本部門の連結売上高は、フラットパネルディスプレイ材料事業の売上が減少したものの、メディカルシステム事業やグラフィックシステム事業、電子材料事業等で売上を伸ばし、700,559百万円(前年同期比2.5%増)となりました。営業利益は、売上高の増加に伴う売上総利益の増加や収益性改善等により、61,693百万円(前年同期比9.3%増)となりました。

#### ドキュメント ソリューション部門

オフィスプロダクト事業では、米国ゼロックス社向け輸出台数が減少したものの、国内大手コンビニエンスストアでの機械代替等によりカラー複合機の販売が好調に推移したことに加え、アジア・オセアニア地域においてモノクロ複合機の販売が好調に推移し、全体で販売台数が増加しました。

オフィスプリンター事業では、アジア・オセアニア地域におけるモノクロ機の販売が好調に推移したものの、全体では販売台数が減少しました。

プロダクションサービス事業では、カラー・オンデマンド・パブリッシング・システムの販売が中高速機から低速機まで好調に推移したことに加え、モノクロ・プロダクション・プリンターの販売も好調に推移し、販売台数が増加しました。

グローバルサービス事業では、マネージド・プリント・サービス（MPS）ビジネスが好調に推移し、国内及びアジア・オセアニア地域ともに売上が増加しました。

本部門の連結売上高は、アジア・オセアニア地域の売上が増加し、868,454百万円（前年同期比1.5%増）となりました。営業利益は、米ドル高による売上原価アップに加え、アジアローカル通貨安による売上総利益のマイナス影響等により、67,898百万円（前年同期比7.3%減）となりました。

#### （２） キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結累計期間における連結ベースの現金及び現金同等物（以下「資金」と記述します。）は、前連結会計年度末より113,874百万円減少し、当第3四半期連結会計期間末においては613,014百万円となりました。

##### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動により得られた資金は143,752百万円となり、前第3四半期連結累計期間と比較して35,822百万円（19.9%）減少しておりますが、これは未払法人税等及びその他負債が減少したこと等によるものです。

##### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動に使用した資金は124,456百万円となり、前第3四半期連結累計期間と比較して19,609百万円（18.7%）増加しておりますが、これは事業買収を行なったこと等によるものです。

##### （財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動に使用した資金は127,471百万円となり、前第3四半期連結累計期間と比較して114,157百万円（9.6倍）増加しておりますが、これは自己株式を取得したこと等によるものです。

### (3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間においては、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに発生した課題はありません。

当社は財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めており、その内容等（会社法施行規則第118条第3号に掲げる事項）は次のとおりであります。

株主の皆様から経営を負託された当社取締役会は、その負託にお応えすべく、平素から当社グループの財務及び事業の方針を決定するにあたり、中長期的な視点に基づく持続的な成長を通じて、企業価値・株主共同の利益の確保及び向上を図ることがその責務であると考えております。この考え方にに基づき、当社グループの企業理念のもと、「先進・独自の多様な技術力」と「グローバルネットワーク」、これらを下支えする「人材」と「企業風土」という当社グループの企業価値の源泉を伸張させること等により、企業価値の向上に努めてまいりました。

当社は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者は、当社グループの企業価値の源泉を理解し、中長期的な視点から当社の企業価値・株主共同の利益を継続的かつ持続的に確保し、向上していくことを可能とする者である必要があると考えております。当社は、当社の支配権の獲得を目的とした買収提案がなされた場合、それを受け入れるか否かは最終的には株主の皆様のご判断に委ねられるべきものと考えております。

株式の大量買付の中には、その目的等から見て企業価値・株主共同の利益に対する明白な侵害をもたらすもの、株主に株式の売却を事実上強要するおそれがあるもの、対象会社の取締役会や株主が株式の大量買付の内容等について検討し、あるいは対象会社の取締役会が代替案を検討するための十分な時間や情報を提供しないもの、対象会社に買収者との十分な交渉機会を提供しないもの等、対象会社の企業価値・株主共同の利益に資さないものがあります。

当社は、当社株式の大量買付を行おうとする者が現れた場合は、株主の皆様のご判断に資するべく積極的な情報収集と適時開示に努めるとともに、当社の企業価値・株主共同の利益の確保及び向上を図るために、会社法及び金融商品取引法等の関係諸法令の範囲内で可能な措置を適切に講じてまいります。

### (4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間における当社グループの研究開発活動の金額は、122,703百万円（前年同期比3.1%増）であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、研究開発活動の状況に重要な変更はありません。



## 第3【提出会社の状況】

## 1【株式等の状況】

## (1)【株式の総数等】

## 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	800,000,000
計	800,000,000

## 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成27年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成28年2月12日)	上場金融商品取引所名又は 登録認可金融商品取引業協 会名	内容
普通株式	514,625,728	514,625,728	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数100株
計	514,625,728	514,625,728		

## (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

## (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

## (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

## (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成27年10月1日～ 平成27年12月31日		514,625,728		40,363		63,636

## (6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

## (7)【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成27年9月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

## 【発行済株式】

平成27年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 50,138,300		
完全議決権株式(その他)	普通株式 464,106,100	4,641,061	
単元未満株式	普通株式 381,328		1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	514,625,728		
総株主の議決権		4,641,061	

(注) 1 単元未満株式には以下が含まれております。

自己株式 当社所有株79株

2 「完全議決権株式(その他)」の中には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が300株含まれております。また、議決権の数(個)の中には、同社名義の完全議決権株式に係る議決権数(3個)が含まれております。

## 【自己株式等】

平成27年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計(株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 富士フィルムホールディングス株式会社	東京都港区 西麻布二丁目26-30	50,138,300		50,138,300	9.74
計		50,138,300		50,138,300	9.74

(注) 上記のほか、当社は平成27年12月31日現在、8,415,200株(議決権の個数84,152個)を実質的に有しております。

## 2【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)附則第4条の規定により、米国において一般に公正妥当と認められている企業会計の基準による用語、様式及び作成方法に準拠して作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成27年10月1日から平成27年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成27年4月1日から平成27年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

		前連結会計年度に係る 要約連結貸借対照表 (平成27年3月31日)		当第3四半期 連結会計期間 (平成27年12月31日)	
区分	注記 番号	金額(百万円)		金額(百万円)	
資産の部					
流動資産					
1 現金及び現金同等物	注12		726,888		613,014
2 有価証券	注3,12		19,033		28,001
3 受取債権					
(1)営業債権及びリース債権	注13	671,807		629,418	
(2)関連会社等に対する債権		31,816		30,629	
(3)貸倒引当金	注13	22,610	681,013	22,623	637,424
4 棚卸資産	注4		372,513		397,553
5 前払費用及びその他の流動資産	注11,12		143,768		144,415
流動資産合計			1,943,215		1,820,407
投資及び長期債権					
1 関連会社等に対する投資及び貸付金	注5		29,426		31,182
2 投資有価証券	注3,12		186,722		169,935
3 長期リース債権及びその他の長期債権	注11, 12,13		169,139		174,937
4 貸倒引当金	注13		4,370		3,967
投資及び長期債権合計			380,917		372,087
有形固定資産					
1 土地			94,304		92,608
2 建物及び構築物	注12		723,809		723,465
3 機械装置及びその他の有形固定資産	注12		1,743,646		1,760,349
4 建設仮勘定			23,396		28,334
			2,585,155		2,604,756
5 減価償却累計額			2,057,778		2,070,075
有形固定資産合計			527,377		534,681
その他の資産					
1 営業権	注14		504,963		529,296
2 その他の無形固定資産	注14		80,271		91,894
3 その他			119,826		120,536
その他の資産合計			705,060		741,726
資産合計			3,556,569		3,468,901

		前連結会計年度に係る 要約連結貸借対照表 (平成27年3月31日)	当第3四半期 連結会計期間 (平成27年12月31日)
区分	注記 番号	金額(百万円)	金額(百万円)
<b>負債の部</b>			
<b>流動負債</b>			
1 社債及び短期借入金	注11	36,644	75,409
2 支払債務			
(1)営業債務		248,527	240,271
(2)設備関係債務		16,733	17,133
(3)関連会社等に対する債務		3,723	3,471
3 未払法人税等		20,443	14,926
4 未払費用		195,270	171,379
5 その他の流動負債	注11,12	100,945	86,088
流動負債合計		622,285	608,677
<b>固定負債</b>			
1 社債及び長期借入金	注11	313,045	308,213
2 退職給付引当金		30,711	26,035
3 預り保証金及びその他の固定負債	注11,12	123,112	130,892
固定負債合計		466,868	465,140
負債合計		1,089,153	1,073,817
<b>契約債務及び偶発債務</b>			
<b>純資産の部</b>			
<b>株主資本</b>			
1 資本金			
<b>普通株式</b>			
発行可能株式総数		800,000,000株	
発行済株式総数		514,625,728株	
2 資本剰余金		75,588	75,643
3 利益剰余金		2,126,075	2,195,363
4 その他の包括利益(損失)累積額	注8,11	91,589	72,141
5 自己株式(取得原価)		100,901	224,896
前連結会計年度末		32,398,163株	
当第3四半期連結会計期間末		58,553,542株	
株主資本合計	注7	2,232,714	2,158,614
非支配持分	注7	234,702	236,470
純資産合計		2,467,416	2,395,084
負債・純資産合計		3,556,569	3,468,901

## ( 2 ) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

区分	注記 番号	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)		当第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	
		金額(百万円)		金額(百万円)	
売上高					
1 売上高		1,550,730		1,577,580	
2 レンタル収入		264,436	1,815,166	263,910	1,841,490
売上原価					
1 売上原価		1,004,181		1,002,574	
2 レンタル原価		107,634	1,111,815	109,121	1,111,695
売上総利益			703,351		729,795
営業費用					
1 販売費及び一般管理費		459,886		473,172	
2 研究開発費		119,040	578,926	122,703	595,875
営業利益			124,425		133,920
営業外収益及び費用( )					
1 受取利息及び配当金		4,632		5,300	
2 支払利息		3,308		3,229	
3 為替差損益・純額	注8,11	6,422		3,151	
4 投資有価証券売却損益・純額	注3,8	3		9,670	
5 その他損益・純額	注8,11, 14	21,003	28,752	768	7,822
税金等調整前四半期純利益			153,177		141,742
法人税等			44,674		44,285
持分法による投資損益			1,400		197
四半期純利益			107,103		97,654
控除：非支配持分帰属損益			13,240		13,270
当社株主帰属四半期純利益			93,863		84,384
1株当たり当社株主帰属 四半期純利益	注10		194.73円		179.54円
潜在株式調整後1株当たり 当社株主帰属四半期純利益	注10		194.15円		178.95円
1株当たり現金配当			25.00円		32.50円

【四半期連結包括利益計算書】  
【第3四半期連結累計期間】

		前第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
区分	注記 番号	金額(百万円)	金額(百万円)
四半期純利益		107,103	97,654
その他の包括利益(損失) - 税効果調整後	注8		
1 有価証券未実現損益変動額		21,411	3,724
2 為替換算調整額		122,702	21,366
3 年金負債調整額		1,822	2,167
4 デリバティブ未実現損益変動額		1,015	707
その他の包括利益(損失)合計	注7	144,920	23,630
四半期包括利益		252,023	74,024
控除：非支配持分帰属四半期包括損益	注7	26,417	9,088
当社株主帰属四半期包括利益		225,606	64,936

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第3四半期連結会計期間】

区分	注記 番号	前第3四半期連結会計期間 (自平成26年10月1日 至平成26年12月31日)		当第3四半期連結会計期間 (自平成27年10月1日 至平成27年12月31日)	
		金額(百万円)		金額(百万円)	
売上高					
1 売上高		542,944		529,213	
2 レンタル収入		89,328	632,272	86,213	615,426
売上原価					
1 売上原価		348,796		329,832	
2 レンタル原価		36,126	384,922	36,424	366,256
売上総利益			247,350		249,170
営業費用					
1 販売費及び一般管理費		155,302		156,136	
2 研究開発費		39,218	194,520	39,785	195,921
営業利益			52,830		53,249
営業外収益及び費用( )					
1 受取利息及び配当金		1,829		1,702	
2 支払利息		1,285		764	
3 為替差損益・純額	注8,11	3,305		137	
4 投資有価証券売却損益・純額	注3,8	1		4,047	
5 その他損益・純額	注8,11, 14	20,690	24,540	954	3,894
税金等調整前四半期純利益			77,370		57,143
法人税等			17,272		16,733
持分法による投資損益			1,827		1,542
四半期純利益			58,271		41,952
控除：非支配持分帰属損益			4,959		4,514
当社株主帰属四半期純利益			53,312		37,438

1株当たり当社株主帰属 四半期純利益	注10	110.59円	81.38円
潜在株式調整後1株当たり 当社株主帰属四半期純利益	注10	110.24円	81.10円
1株当たり現金配当		-	-



【四半期連結包括利益計算書】  
【第3四半期連結会計期間】

		前第3四半期連結会計期間 (自平成26年10月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成27年10月1日 至平成27年12月31日)
区分	注記 番号	金額(百万円)	金額(百万円)
四半期純利益		58,271	41,952
その他の包括利益(損失) - 税効果調整後	注8		
1 有価証券未実現損益変動額		10,857	8,862
2 為替換算調整額		85,257	97
3 年金負債調整額		553	325
4 デリバティブ未実現損益変動額		384	338
その他の包括利益(損失)合計		96,283	8,946
四半期包括利益		154,554	50,898
控除：非支配持分帰属四半期包括損益		14,318	5,281
当社株主帰属四半期包括利益		140,236	45,617

## (3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

		前第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
区分	注記 番号	金額(百万円)	金額(百万円)
営業活動によるキャッシュ・フロー			
1 四半期純利益		107,103	97,654
2 営業活動により増加した 純キャッシュへの調整			
(1) 減価償却費		90,963	88,023
(2) 投資有価証券売却損益		3	9,670
(3) 持分法による投資損益 (受取配当金控除後)		9,329	502
(4) 資産及び負債の増減			
受取債権の減少		25,178	27,992
棚卸資産の増加		15,620	26,969
営業債務の減少		22,761	2,444
未払法人税等及びその他負債の減少		5,521	26,725
(5) その他		8,824	4,611
営業活動によるキャッシュ・フロー		179,574	143,752
投資活動によるキャッシュ・フロー			
1 有形固定資産の購入		43,725	46,212
2 ソフトウェアの購入		17,381	17,666
3 有価証券・投資有価証券 の売却・満期償還		13,764	40,206
4 有価証券・投資有価証券の購入		35,475	29,817
5 定期預金の増加( )・減少(純額)		2,424	523
6 関係会社投融資及びその他貸付金の増加		3,650	2,450
7 事業の買収(買収資産に含まれる現金及 び現金同等物控除後)	注14	416	36,656
8 その他		21,220	31,338
投資活動によるキャッシュ・フロー		104,847	124,456
財務活動によるキャッシュ・フロー			
1 長期債務による調達額		4,530	2,542
2 長期債務の返済額		6,674	5,091
3 短期債務の増加(純額)		21,984	38,992
4 親会社による配当金支払額		26,510	31,974
5 非支配持分への配当金支払額		6,600	7,299
6 自己株式の取得(純額)		44	124,641
財務活動によるキャッシュ・フロー		13,314	127,471
為替変動による現金 及び現金同等物への影響		31,922	5,699
現金及び現金同等物純増加・純減少( )		93,335	113,874
現金及び現金同等物期首残高		604,571	726,888
現金及び現金同等物四半期末残高		697,906	613,014

## 四半期連結財務諸表に対する注記

### 1 経営活動の概況

当社は、イメージング、インフォメーション及びドキュメントの分野において、事業展開を行っております。イメージングソリューションでは、カラーフィルム、デジタルカメラ、光学デバイス、フォトフィニッシング機器、写真プリント用カラーペーパー・薬品等の開発、製造、販売、サービスを行っております。インフォメーションソリューションでは、メディカルシステム機材、ライフサイエンス製品、医薬品、グラフィックシステム機材、フラットパネルディスプレイ材料、記録メディア、電子材料等の開発、製造、販売、サービスを行っております。ドキュメントソリューションでは、オフィス用複写機・複合機、プリンター、プロダクションサービス関連商品、オフィスサービス、用紙、消耗品等の開発、製造、販売、サービスを行っております。当社は世界各国で営業活動を行っており、海外売上高は60.8%を占め、北米、欧州及びアジアが主要市場であります。主な生産拠点は日本、米国、中国、オランダ及びベトナムに所在しております。

### 2 重要な連結会計方針の概要

当四半期連結財務諸表は、米国で一般に公正妥当と認められている企業会計の基準(米国財務会計基準審議会による会計基準編纂書 (Accounting Standards Codification™;以下、「基準書」と記述します。))に基づいて作成されております。

当社は1970年のユーロドル建て転換社債発行に係る約定により、以後、米国で一般に公正妥当と認められている企業会計の基準による連結財務諸表(米国式連結財務諸表)を作成し、開示しております。また、当社は米国預託証券を1971年以来、NASDAQにアン・スポンサードとして上場しておりましたが、平成21年7月31日をもって、上場を廃止致しました。なお、当社は今後も米国式連結財務諸表の作成、開示を継続致します。

我が国における会計処理の原則及び手続並びに表示方法と当社が採用している米国で一般に公正妥当と認められている会計処理の原則及び手続並びに表示方法との主要な相違の内容は次のとおりであり、金額的に重要なものについては我が国の基準に基づいた場合の税金等調整前四半期純利益に対する影響額を開示しております。かかる影響額は実務上の困難性等から概算であります。

(イ)連結の範囲は基準書810、持分法の適用は基準書323に基づいております。

(ロ)基準書840に基づき、借手のリース取引に関しては、ある一定の条件に該当する場合はキャピタル・リースとし、最低リース料支払総額の現在価値又はリース資産の公正価値を有形固定資産及び借入金に計上しております。また、貸手のリース取引に関しては、ある一定の条件に該当する場合は資産の販売取引として処理し、リース資産は貸借対照表から除外しております。

(ハ)剰余金の配当は、前第3四半期連結累計期間、当第3四半期連結累計期間、前第3四半期連結会計期間及び当第3四半期連結会計期間に対応する事業期間に係る剰余金の配当による方法(繰上方式)を採用しております。

(ニ)基準書715に基づき、年金数理計算による退職給付費用を計上しております。また、同基準書に基づき、退職給付制度の清算及び縮小の会計処理を行っております。当該会計処理による前第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結累計期間の影響額はそれぞれ約5,032百万円(利益)及び約3,739百万円(利益)であります。また、前第3四半期連結会計期間及び当第3四半期連結会計期間の影響額はそれぞれ約1,683百万円(利益)及び約1,248百万円(利益)であります。

(ホ)デリバティブについては、基準書815を適用しております。

- (ヘ)基準書820に基づき、資産及び負債の公正価値の測定について開示しております。また、基準書825に基づき、金融商品の公正価値について開示しております。
- (ト)四半期連結損益計算書上、持分法による投資損益は、「持分法による投資損益」として区分表示しております。
- (チ)基準書320に基づき、有価証券の公正価値の下落が一時的でない認められた場合には、当該銘柄の公正価値により帳簿価額を付け替えて取得原価を修正する減損処理を行い、同一連結会計年度において、公正価値が回復した場合でも取得原価を変更しておりません。当該会計処理及び過去に減損した銘柄を売却したことによる前第3四半期連結累計期間及び前第3四半期連結会計期間への影響額はありませぬ。当第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結会計期間の影響額は、それぞれ2,540百万円(利益)及び1,235百万円(利益)であります。
- (リ)基準書350に基づき、営業権及び存続期間に限りのないその他の無形固定資産は償却せず、毎年減損の有無を検討しており、必要に応じて減損処理を行っております。当該会計処理による前第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結累計期間の影響額は、それぞれ約16,376百万円(利益)及び約20,474百万円(利益)であります。また、前第3四半期連結会計期間及び当第3四半期連結会計期間の影響額は、それぞれ約5,646百万円(利益)及び約6,683百万円(利益)であります。
- (ヌ)将来の休暇について従業員が給付を受け取れる権利に対し、基準書710に基づき、未払債務を計上しております。当該会計処理による前第3四半期連結累計期間、当第3四半期連結累計期間、前第3四半期連結会計期間及び当第3四半期連結会計期間への影響額は重要性がありません。
- (ル)四半期連結貸借対照表上、取得日より3ヶ月以内に満期の到来する一部の負債証券は「現金及び現金同等物」に含めて表示しております。

上記の修正事項を反映した後の主要な会計方針は次のとおりであります。

(1) 連結の方針及び関連会社等に対する持分法の適用

当四半期連結財務諸表は、当社及び当社が直接的又は間接的に支配している子会社の財務諸表を含んでおり、連結会社間の重要な取引及び勘定残高はすべて消去しております。

当社が、直接又は間接にその議決権の20%から50%を保有し、重要な影響を及ぼし得る関連会社(以下、「関連会社等」と記述します。)に対する投資額は持分法により評価しております。四半期純利益には、未実現利益消去後のこれら関連会社等の四半期純損益のうち、当社持分が含まれております。

(2) 見積の使用

米国で一般に公正妥当と認められている企業会計の基準に基づいて四半期連結財務諸表を作成するために、当社の経営陣は必要に応じて仮定と見積を行って財務諸表や注記に記載された金額を算出しております。

それらの仮定と見積は、受取債権、棚卸資産、有価証券及び投資有価証券、及び繰延税金資産の評価、減損を含む有形固定資産及び無形固定資産の評価、耐用年数及び償却方法、不確実な税務ポジション、年金数理計算による従業員年金債務の見積に係る仮定、並びに環境問題、訴訟、当局による調査等から生じる偶発債務等といった重要性のある項目を含んでおります。実際の結果がこれらの見積と異なることもあり得ます。

(3) 外貨換算

当社の海外子会社は、原則として現地通貨を機能通貨として使用しており、これら外貨建財務諸表の円貨への換算は、資産及び負債は貸借対照表日の為替相場により、また収益及び費用は期中平均為替相場により行われており、換算により生じた換算差額は為替換算調整額として純資産の部の独立項目である「その他の包括利益(損失)累積額」に含めて表示しております。

外貨建金銭債権債務は貸借対照表日の為替相場により換算しており、換算によって生じた換算差額は損益に計上しております。

(4) 現金同等物

当社は随時に現金化が可能な取得日より3ヶ月以内に満期の到来するすべての流動性の高い投資を現金同等物として処理しております。

売却可能有価証券に分類される取得日より3ヶ月以内に満期の到来する一部の負債証券は、連結貸借対照表の「現金及び現金同等物」に含めております。これらの前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末における公正価値はそれぞれ369,429百万円及び274,693百万円であります。

(5) 有価証券及び投資有価証券

当社は有価証券及び投資有価証券を売却可能有価証券に分類し、公正価値で評価を行い、関連税効果調整後の未実現損益を純資産の部の「その他の包括利益(損失)累積額」に含めて表示しております。当社は、有価証券の価値の下落が一時的でないかと判断される場合は、持分証券に係る減損損失を損益に計上し、負債証券に係る減損損失のうち負債証券の信用リスクから生じる価格の下落部分については損益に計上し、それ以外の要因に基づく部分については「その他の包括利益(損失)累積額」に含めて表示しております。価値の下落が一時的でないかどうかの判断に関し、持分証券については、公正価値が帳簿価額を下回っている期間と程度、被投資会社の財政状態と近い将来の見通し及び将来における公正価値の回復まで投資を継続する当社の意図と能力を考慮し、負債証券については投資の将来における売却意図又は必要性及び帳簿価額の回収可能性を考慮しております。有価証券の原価は移動平均法によって評価されております。売却可能有価証券に係る配当金は四半期連結損益計算書の「受取利息及び配当金」に含めております。

(6) 製品保証

当社は一部の製品について、顧客に対して製品保証を提供しており、その製品保証期間は一般的に顧客の購入日より1年間であります。製品保証及びアフターサービスに関する見積費用は、関連する収益が認識された時点で計上しております。製品保証債務の見積金額は、過去の実績に基づいて算出しております。

(7) 法人税等

法人税等は基準書740に基づき資産負債法により算出しております。

当社は資産及び負債の財務会計上の金額と税務上の金額の差異に基づいて繰延税金資産及び負債を認識しており、その算出にあたっては差異が解消される年度に適用される税率及び税法を適用しております。繰延税金資産のうち回収されない可能性が高い部分については、評価性引当金を計上しております。

当社は、同基準書に基づき、税務当局による調査において50%超の可能性をもって税務ベネフィットが認められる場合にその影響額を認識しております。

(8) 1株当たり当社株主帰属四半期純利益

1株当たり当社株主帰属四半期純利益は前第3四半期連結累計期間、当第3四半期連結累計期間、前第3四半期連結会計期間及び当第3四半期連結会計期間の加重平均発行済株式数に基づいて計算しております。潜在株式調整後1株当たり当社株主帰属四半期純利益は、ストックオプションが行使された場合に発行される追加株式の希薄化効果を含んでおります。

(9) 後発事象

基準書855に基づき当第3四半期連結会計期間末後の後発事象は、四半期連結財務諸表が提出可能となった日である平成28年2月9日までの期間において評価しております。

(10) 組替再表示

前連結会計年度の連結財務諸表及び注記を当第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結会計期間の表示にあわせて組替再表示しております。

(11) 新会計基準

平成27年11月に、米国財務会計基準審議会は、会計基準アップデート2015-17「繰延税金の貸借対照表における分類」を発行しました。会計基準アップデート2015-17は、全ての繰延税金資産・負債を貸借対照表で固定に区分することを規定しております。会計基準アップデート2015-17は平成28年12月15日より後に始まる連結会計年度（期中会計期間を含む）から適用され、早期適用が認められております。また会計基準アップデート2015-17は適用時に開示される全ての会計年度に遡及的に適用する方法と将来に向けて適用する方法のいずれかを用いることを要求しております。当社は当第3四半期連結会計期間末において早期適用は行っておりません。会計基準アップデート2015-17が当社の財政状態に与える影響、適用方法及び適用時期について現在検討しております。

平成28年1月に、米国財務会計基準審議会は、会計基準アップデート2016-01「金融商品 - 全体：金融資産と金融負債の認識及び測定」を発行しました。会計基準アップデート2016-01は、持分法投資及び連結された投資を除き、持分証券投資を公正価値により測定し、その変動を純損益に認識することを求めています。また公正価値オプションが選択された金融負債の特定のリスクに起因する公正価値の変動について、その他の包括利益として表示することを求めるとともに、金融商品の開示に関するいくつかの規定を修正しております。さらに、会計基準アップデート2016-01は売却可能有価証券に関する繰延税金資産に対する評価性引当金の要否の判断に関する規定を明らかにしております。会計基準アップデート2016-01は平成29年12月15日より後に始まる連結会計年度（期中会計期間を含む）から適用され、当社においては平成30年4月1日より始まる連結会計年度から適用になります。会計基準アップデート2016-01が当社の経営成績及び財政状態に与える影響並びに適用方法について現在検討しております。

## 3 負債証券及び持分証券投資

売却可能有価証券に関して、前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末の主な有価証券の種類別の取得原価、未実現利益、未実現損失及び見積公正価値は次のとおりであります。なお、売却可能有価証券に分類される取得日より3ヶ月以内に満期となる一部の負債証券は、連結貸借対照表の「現金及び現金同等物」に含まれており、これらの前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末における未実現利益額及び未実現損失額に重要性はありません。

	前連結会計年度末				当第3四半期連結会計期間末			
	取得原価 (百万円)	未実現 利益 (百万円)	未実現 損失 (百万円)	見積公正 価値 (百万円)	取得原価 (百万円)	未実現 利益 (百万円)	未実現 損失 (百万円)	見積公正 価値 (百万円)
有価証券								
社債	19,000	34	1	19,033	28,000	13	12	28,001
合計	19,000	34	1	19,033	28,000	13	12	28,001

	前連結会計年度末				当第3四半期連結会計期間末			
	取得原価 (百万円)	未実現 利益 (百万円)	未実現 損失 (百万円)	見積公正 価値 (百万円)	取得原価 (百万円)	未実現 利益 (百万円)	未実現 損失 (百万円)	見積公正 価値 (百万円)
投資有価証券								
外国政府債	262	9	-	271	256	5	-	261
社債	2,000	-	2	1,998	-	-	-	-
株式	53,161	97,872	305	150,728	52,917	95,540	467	147,990
投資信託	15,408	9,372	-	24,780	7,536	6,521	1	14,056
合計	70,831	107,253	307	177,777	60,709	102,066	468	162,307

前第3四半期連結累計期間及び前第3四半期連結会計期間における売却可能有価証券の売却収入額、売却利益額及び売却損失額にそれぞれ重要性はありません。当第3四半期連結累計期間における売却可能有価証券の売却収入額は19,203百万円、売却利益額は9,682百万円であり、売却損失額に重要性はありません。当第3四半期連結会計期間における売却可能有価証券の売却収入額は11,900百万円、売却利益額は4,056百万円であり、売却損失額に重要性はありません。

当第3四半期連結会計期間末における満期別に分類された負債証券の取得原価及び見積公正価値は次のとおりであります。なお、一部の負債証券については、証券発行者がペナルティなしに繰上償還できる権利を持っているため、実際の満期は契約上の満期と異なることがあります。

	取得原価 (百万円)	見積公正価値 (百万円)
1年以内	28,000	28,001
1年超5年以内	256	261
合計	28,256	28,262

前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末における売却可能有価証券のうち、未実現損失の状態が継続しているものの見積公正価値及び未実現損失は次のとおりであります。

	前連結会計年度末					
	12ヶ月未満		12ヶ月以上		合計	
	見積公正価値 (百万円)	未実現損失 (百万円)	見積公正価値 (百万円)	未実現損失 (百万円)	見積公正価値 (百万円)	未実現損失 (百万円)
社債	8,996	3	-	-	8,996	3
株式	1,114	6	777	299	1,891	305
合計	10,110	9	777	299	10,887	308

  

	当第3四半期連結会計期間末					
	12ヶ月未満		12ヶ月以上		合計	
	見積公正価値 (百万円)	未実現損失 (百万円)	見積公正価値 (百万円)	未実現損失 (百万円)	見積公正価値 (百万円)	未実現損失 (百万円)
社債	5,988	12	-	-	5,988	12
株式	846	192	790	275	1,636	467
投資信託	51	1	-	-	51	1
合計	6,885	205	790	275	7,675	480

平成27年12月31日現在、公正価値が原価に対して下落している売却可能有価証券のうち、主なものは日本国内の市場性のある株式であり、その銘柄数は約20であります。未実現損失が発生している主要な銘柄について、投資先の財政状態や将来見込みに基づき、下落率及び下落期間を勘案した結果、当第3四半期連結累計期間は、株式の公正価値の下落が一時的ではないと判断するには尚早であること、また当社及び連結子会社は当該株式を近い将来売却する予定はなく、公正価値が将来回復するのに十分な合理的期間にわたり株式の保有を継続する意図と能力を有していることから、当社はこれらの未実現損失を含む投資につき、一時的でない価値の下落にあたらぬものと判断しました。

前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末において原価法により評価された市場性のない有価証券の取得原価は、それぞれ8,945百万円及び7,628百万円であります。前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末において、上記投資額のうち減損の評価を行っていない有価証券の取得原価は、それぞれ6,902百万円及び5,467百万円であります。減損の評価を行わなかったのは、投資の公正価値を見積ることが実務上困難なこと及び投資の公正価値に著しく不利な影響を及ぼす事象や状況の変化が見られなかったためであります。



## 4 棚卸資産

前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末における棚卸資産の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度末 (百万円)	当第3四半期 連結会計期間末 (百万円)
製品・商品	228,980	238,389
半製品・仕掛品	52,622	65,369
原材料・貯蔵品	90,911	93,795
合計	372,513	397,553

## 5 関連会社等に対する投資

前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末における持分法適用の関連会社等に対する投資はそれぞれ25,942百万円及び27,882百万円であります。これらの関連会社は主にイメージングソリューション、インフォメーションソリューション及びドキュメントソリューション事業の業務を行っております。当社の持分法適用の関連会社等の経営成績は次のとおりであります。

	前第3四半期 連結累計期間 (百万円)	当第3四半期 連結累計期間 (百万円)
売上高	208,007	207,312
四半期純利益(損失)	1,834	47

	前第3四半期 連結会計期間 (百万円)	当第3四半期 連結会計期間 (百万円)
売上高	76,470	75,931
四半期純利益(損失)	4,474	35

## 6 退職給付制度

確定給付型退職給付制度の前第3四半期連結累計期間、当第3四半期連結累計期間、前第3四半期連結会計期間及び当第3四半期連結会計期間における退職給付費用の内訳は次のとおりであります。

	前第3四半期 連結累計期間 (百万円)	当第3四半期 連結累計期間 (百万円)
退職給付費用の内訳		
勤務費用	16,973	17,075
利息費用	9,689	8,993
期待運用収益	16,284	17,219
数理計算上の差異の償却額	5,505	4,655
過去勤務債務の償却額	2,280	2,321
退職給付費用	13,603	11,183

	前第3四半期 連結会計期間 (百万円)	当第3四半期 連結会計期間 (百万円)
退職給付費用の内訳		
勤務費用	5,800	5,584
利息費用	3,252	2,962
期待運用収益	5,463	5,669
数理計算上の差異の償却額	1,833	1,535
過去勤務債務の償却額	760	778
退職給付費用	4,662	3,634

## 7 純資産

前第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結累計期間における純資産の変動は次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間			当第3四半期連結累計期間		
	株主資本 (百万円)	非支配持分 (百万円)	純資産計 (百万円)	株主資本 (百万円)	非支配持分 (百万円)	純資産計 (百万円)
期首残高	2,020,639	177,584	2,198,223	2,232,714	234,702	2,467,416
四半期純利益	93,863	13,240	107,103	84,384	13,270	97,654
その他の包括利益(損失)						
有価証券未実現損益変動額	21,190	221	21,411	3,862	138	3,724
為替換算調整額	110,051	12,651	122,702	16,988	4,378	21,366
年金負債調整額	1,538	284	1,822	2,100	67	2,167
デリバティブ未実現損益 変動額	1,036	21	1,015	698	9	707
四半期包括利益	225,606	26,417	252,023	64,936	9,088	74,024
自己株式取得	44	-	44	124,641	-	124,641
当社株主への配当金	12,051	-	12,051	15,096	-	15,096
非支配持分への配当金	-	6,600	6,600	-	7,299	7,299
非支配持分との資本取引その他	597	30,889	31,486	701	21	680
期末残高	2,234,747	228,290	2,463,037	2,158,614	236,470	2,395,084

## 8 その他の包括利益(損失)

前第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結累計期間における「その他の包括利益(損失)累計額」の変動は次のとおりであります。

## 前第3四半期連結累計期間

	有価証券未実現損益 (百万円)	為替換算調整額 (百万円)	年金負債調整額 (百万円)	デリバティブ 未実現損益 (百万円)	合計 (百万円)
期首残高	36,878	15,071	81,882	62	29,995
当期変動額	21,190	110,051	107	667	131,801
当期損益への組替額	-	-	1,645	1,703	58
純変動額	21,190	110,051	1,538	1,036	131,743
期末残高	58,068	125,122	80,344	1,098	101,748

## 当第3四半期連結累計期間

	有価証券未実現損益 (百万円)	為替換算調整額 (百万円)	年金負債調整額 (百万円)	デリバティブ 未実現損益 (百万円)	合計 (百万円)
期首残高	70,832	98,703	76,966	980	91,589
当期変動額	2,461	16,988	777	28	13,722
当期損益への組替額	6,323	-	1,323	726	5,726
純変動額	3,862	16,988	2,100	698	19,448
期末残高	66,970	81,715	74,866	1,678	72,141

前第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結累計期間におけるその他の包括利益(損失)累積額から当期損益へ組替えられた金額は次のとおりであります。

損益計算書科目 ( は損失)	前第3四半期 連結累計期間 (百万円)	当第3四半期 連結累計期間 (百万円)
有価証券未実現損益		
投資有価証券売却損益・純額	-	9,673
その他損益・純額	-	2
法人税等	-	3,348
当社株主帰属四半期純利益	-	6,323
年金負債調整額		
注記6「退職給付制度」をご参照下さい。	3,225	2,334
法人税等	1,264	920
非支配持分帰属損益	316	91
当社株主帰属四半期純利益	1,645	1,323
デリバティブ未実現損益		
為替差損益・純額	3,532	1,444
法人税等	1,261	476
非支配持分帰属損益	568	242
当社株主帰属四半期純利益	1,703	726
当期組替額合計	58	5,726

前第3四半期連結会計期間及び当第3四半期連結会計期間におけるその他の包括利益(損失)累積額から当期損益へ組替えられた金額は次のとおりであります。

損益計算書科目 ( は損失)	前第3四半期 連結会計期間 (百万円)	当第3四半期 連結会計期間 (百万円)
有価証券未実現損益		
投資有価証券売却損益・純額	-	4,047
その他損益・純額	-	1
法人税等	-	1,335
当社株主帰属四半期純利益	-	2,711
年金負債調整額		
注記6「退職給付制度」をご参照下さい。	1,073	757
法人税等	420	299
非支配持分帰属損益	104	28
当社株主帰属四半期純利益	549	430
デリバティブ未実現損益		
為替差損益・純額	1,441	2,267
法人税等	512	749
非支配持分帰属損益	233	379
当社株主帰属四半期純利益	696	1,139
当期組替額合計	147	1,142

## 9 契約債務及び偶発債務

### 債務保証

当社は、他者の特定の負債及びその他債務について保証しております。当第3四半期連結会計期間末において、保証に基づいて当社が将来支払う可能性のある割引前の金額は最大で11,207百万円であり、そのうち、金融機関に対する従業員の住宅ローンの保証が6,094百万円であります。従業員が支払不能な状態に陥った場合は、一部の子会社は従業員に代わり不履行の住宅ローンを支払う必要があります。一部の保証については従業員の財産により担保されており、その金額は6,078百万円であります。住宅ローン保証の期間は、1年から20年であります。これまで、保証債務に関して多額の支払が生じたことはなく、当第3四半期連結会計期間末において、保証に対して債務計上している金額は重要性がありません。

### 購入契約、その他の契約債務及び偶発債務

当第3四半期連結会計期間末における契約債務残高は主として有形固定資産の建設及び購入に関するものであり、その金額は20,495百万円であります。当第3四半期連結会計期間末における当社が銀行に対して負っている割引手形に関する偶発債務は、4,504百万円であります。

事業の性質上、当社は種々の係争案件や当局の調査に係わっております。当社は環境問題、訴訟、当局による調査等、将来に生じる可能性が高く、かつ、損失金額が合理的に見積可能な偶発事象がある場合は、必要な引当を計上しております。これらの損失金額は現時点では確定していませんが、当社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重大な影響を及ぼすものではないと考えております。

### 製品保証

当社は一部の製品について、顧客に対して製品保証を提供しており、これら製品保証期間は一般的に製品購入日より1年間であります。当社の製品保証引当金の増減の明細は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (百万円)	当第3四半期 連結累計期間 (百万円)
引当金期首残高	9,228	9,163
期中引当金繰入額	12,378	9,109
期中目的取崩額	12,380	8,526
失効を含むその他増減	63	486
引当金期末残高	9,163	9,260

10 1株当たり当社株主帰属四半期純利益

1株当たり当社株主帰属四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり当社株主帰属四半期純利益の計算は次のとおりであります。

	前第3四半期 連結累計期間 (百万円)	当第3四半期 連結累計期間 (百万円)
当社株主帰属四半期純利益	93,863	84,384

	前第3四半期 連結累計期間 (株)	当第3四半期 連結累計期間 (株)
平均発行済株式数	482,004,297	470,003,157
希薄化効果のある証券 ストックオプション	1,456,914	1,545,149
潜在株式調整後発行済株式数	483,461,211	471,548,306

	前第3四半期 連結累計期間 (円)	当第3四半期 連結累計期間 (円)
1株当たり当社株主帰属四半期純利益	194.73	179.54
潜在株式調整後1株当たり当社株主 帰属四半期純利益	194.15	178.95

	前第3四半期 連結会計期間 (百万円)	当第3四半期 連結会計期間 (百万円)
当社株主帰属四半期純利益	53,312	37,438

	前第3四半期 連結会計期間 (株)	当第3四半期 連結会計期間 (株)
平均発行済株式数	482,061,389	460,059,330
希薄化効果のある証券 ストックオプション	1,546,104	1,555,028
潜在株式調整後発行済株式数	483,607,493	461,614,358

	前第3四半期 連結会計期間 (円)	当第3四半期 連結会計期間 (円)
1株当たり当社株主帰属四半期純利益	110.59	81.38
潜在株式調整後1株当たり当社株主 帰属四半期純利益	110.24	81.10

前第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結累計期間において希薄化効果を有しないため潜在株式調整後1株当たり当社株主帰属四半期純利益の計算より除いたストックオプションは、それぞれ193,800株及び193,100株であります。前第3四半期連結会計期間及び当第3四半期連結会計期間において希薄化効果を有しないため潜在株式調整後1株当たり当社株主帰属四半期純利益の計算より除いたストックオプションは、それぞれ170,600株及び170,600株であります。

## 1.1 デリバティブ

当社は国際的に事業を展開しており、外国為替相場、市場金利及び一部の商品価格の変動から生じる市場リスクを負っております。当社はこれらのリスクを減少させる目的でのみデリバティブ取引を利用しております。

当社はデリバティブ取引の承認、報告、監視等の手続についてリスク管理規程を作成し、それに従いデリバティブ取引を利用しております。当該リスク管理規程はトレーディング目的でデリバティブ取引を保有又は発行することを禁止しております。以下は当社のリスク管理規程の概要及び連結財務諸表に与える影響であります。

### キャッシュ・フローヘッジ

一部の子会社は将来予定されている外貨建ての取引先及び関係会社との輸入仕入や輸出売上及び関連する外貨建債権債務に関する外貨の変動リスクを軽減するために外国為替予約を結んでおります。円の価値が外貨(主として米ドル)に対して下落した場合に、将来の外貨の価値の上昇に伴う支出もしくは収入の増加は、ヘッジ指定された外国為替予約の価値の変動に伴う損益と相殺されます。反対に円の価値が外貨に対して上昇した場合には、将来の外貨の価値の下落に伴う支出もしくは収入の減少は、ヘッジ指定された外国為替予約の価値の変動に伴う損益と相殺されます。

当社は借入債務に係る金利変動リスクを軽減するために金利スワップを結んでおります。

これらのキャッシュ・フローヘッジとして扱われているデリバティブの公正価値の変動は税効果調整後の金額で四半期連結貸借対照表の「その他の包括利益(損失)累積額」に表示しております。この金額はヘッジ対象に関する損益を計上した期に損益に組替えられることとなります。ヘッジとして有効でない又はヘッジの有効性評価から除外されたデリバティブ又はその一部に関する損益が当社の経営成績及び財政状態に与える重要な影響はありません。

当第3四半期連結会計期間末において、今後12ヶ月の間にデリバティブ取引による未実現損失103百万円(税効果調整前)をその他の包括利益(損失)累積額から当期損益へ組替える見込みであります。

### ヘッジ指定されていないデリバティブ

一部の子会社は外貨建ての予定取引や外貨建債権債務に関する外貨の変動リスクを軽減するために外国為替予約及び通貨スワップ契約を結んでおります。また、変動利付債務に関する金利の変動リスクを軽減するために金利スワップ契約を結んでおり、外貨建貸付債権に関する金利の変動リスク及び外貨の変動リスクを軽減するために通貨金利スワップ契約を結んでおります。これらのデリバティブは経済的な観点からはヘッジとして有効であります。一部の子会社はこれらの契約についてヘッジ会計を適用するために必要とされているヘッジ指定をしておりません。その結果、これらデリバティブの公正価値の変動額については、ただちに当期損益として認識されます。

### デリバティブ活動の規模

前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末における外国為替予約契約、通貨スワップ契約、通貨金利スワップ契約及び金利スワップ契約の残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度末 (百万円)	当第3四半期 連結会計期間末 (百万円)
外国為替予約契約(売却)	104,186	99,280
外国為替予約契約(購入)	53,829	55,396
通貨スワップ契約	46,506	51,201
通貨金利スワップ契約	27,057	25,066
金利スワップ契約	151,209	149,470



## 連結財務諸表に与える影響

前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末におけるデリバティブに関する連結貸借対照表上の表示科目及び公正価値は次のとおりであります。

デリバティブ資産			
貸借対照表科目	前連結会計年度末 (百万円)	当第3四半期 連結会計期間末 (百万円)	
ヘッジ商品に指定されている			
デリバティブ商品			
外国為替予約	前払費用及びその他の流動資産	763	450
合計		763	450
ヘッジ商品に指定されていない			
デリバティブ商品			
外国為替予約	前払費用及びその他の流動資産	115	216
通貨スワップ	前払費用及びその他の流動資産	-	3,197
通貨スワップ	長期リース債権及びその他の長期債権	915	236
通貨金利スワップ	前払費用及びその他の流動資産	-	791
通貨金利スワップ	長期リース債権及びその他の長期債権	36	445
金利スワップ	長期リース債権及びその他の長期債権	-	12
合計		1,066	4,897
デリバティブ資産合計		1,829	5,347
デリバティブ負債			
貸借対照表科目	前連結会計年度末 (百万円)	当第3四半期 連結会計期間末 (百万円)	
ヘッジ商品に指定されている			
デリバティブ商品			
外国為替予約	その他の流動負債	976	1,615
外国為替予約	預り保証金及びその他の固定負債	295	-
金利スワップ	預り保証金及びその他の固定負債	1,491	2,477
合計		2,762	4,092
ヘッジ商品に指定されていない			
デリバティブ商品			
外国為替予約	その他の流動負債	78	32
通貨スワップ	その他の流動負債	399	344
通貨スワップ	預り保証金及びその他の固定負債	884	898
通貨金利スワップ	その他の流動負債	2,186	-
通貨金利スワップ	預り保証金及びその他の固定負債	95	-
金利スワップ	その他の流動負債	19	23
金利スワップ	預り保証金及びその他の固定負債	408	515
その他	その他の流動負債	-	649
合計		4,069	2,461
デリバティブ負債合計		6,831	6,553

前第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結累計期間におけるデリバティブに関する四半期連結損益計算書上の表示科目及び計上金額は次のとおりであります。

キャッシュ・フローヘッジ	前第3四半期連結累計期間		
	その他の包括利益 (損失)累積額への計上額 (ヘッジ有効部分)	その他の包括利益(損失)累積額から 損益への組替額(ヘッジ有効部分)	
	(百万円)	損益計算書科目	(百万円)
外国為替予約	3,655	為替差損益・純額	3,532
金利スワップ	1,706	-	-
合計	1,949		3,532

ヘッジ指定されていない デリバティブ	前第3四半期連結累計期間	
	損益計算書科目	(百万円)
外国為替予約	為替差損益・純額	2,116
通貨スワップ	為替差損益・純額	1,985
通貨金利スワップ	為替差損益・純額	1,488
金利スワップ	その他損益・純額	247
その他	その他損益・純額	132
合計		5,968

キャッシュ・フローヘッジ	当第3四半期連結累計期間		
	その他の包括利益 (損失)累積額への計上額 (ヘッジ有効部分)	その他の包括利益(損失)累積額から 損益への組替額(ヘッジ有効部分)	
	(百万円)	損益計算書科目	(百万円)
外国為替予約	1,386	為替差損益・純額	1,444
金利スワップ	986	-	-
合計	400		1,444

ヘッジ指定されていない デリバティブ	当第3四半期連結累計期間	
	損益計算書科目	(百万円)
外国為替予約	為替差損益・純額	293
通貨スワップ	為替差損益・純額	2,558
通貨金利スワップ	為替差損益・純額	1,829
金利スワップ	その他損益・純額	104
その他	その他損益・純額	946
合計		3,630

前第3四半期連結会計期間及び当第3四半期連結会計期間におけるデリバティブに関する四半期連結損益計算書上の表示科目及び計上金額は次のとおりであります。

キャッシュ・フローヘッジ	前第3四半期連結会計期間		
	その他の包括利益 (損失)累積額への計上額 (ヘッジ有効部分)	その他の包括利益(損失)累積額から 損益への組替額(ヘッジ有効部分)	
	(百万円)	損益計算書科目	(百万円)
外国為替予約	1,412	為替差損益・純額	1,441
金利スワップ	568	-	-
合計	844		1,441

ヘッジ指定されていない デリバティブ	前第3四半期連結会計期間	
	損益計算書科目	(百万円)
外国為替予約	為替差損益・純額	1,196
通貨スワップ	為替差損益・純額	1,239
通貨金利スワップ	為替差損益・純額	2,608
金利スワップ	その他損益・純額	177
その他	その他損益・純額	142
合計		5,078

キャッシュ・フローヘッジ	当第3四半期連結会計期間		
	その他の包括利益 (損失)累積額への計上額 (ヘッジ有効部分)	その他の包括利益(損失)累積額から 損益への組替額(ヘッジ有効部分)	
	(百万円)	損益計算書科目	(百万円)
外国為替予約	2,340	為替差損益・純額	2,267
金利スワップ	427	-	-
合計	2,767		2,267

ヘッジ指定されていない デリバティブ	当第3四半期連結会計期間	
	損益計算書科目	(百万円)
外国為替予約	為替差損益・純額	45
通貨スワップ	為替差損益・純額	1,687
通貨金利スワップ	為替差損益・純額	1,825
金利スワップ	その他損益・純額	79
その他	その他損益・純額	815
合計		4,203

### 信用リスクの集中

当社の保有している金融商品のうち潜在的に著しい信用リスクにさらされているものは、主に現金及び現金同等物、有価証券及び投資有価証券、営業債権及びリース債権、及びデリバティブであります。

当社は現金及び現金同等物、短期投資をさまざまな金融機関に預託しております。当社の方針として、一つの金融機関にリスクを集中させないこととしており、また、定期的にこれらの金融機関の信用度を評価しております。

営業債権については、大口顧客に対する営業債権を含んでいるために、信用リスクにさらされていますが、預り保証金の保持及び継続的な信用評価の見直しによって、リスクは限定されております。貸倒引当金は、潜在的な損失を補うために必要と思われる金額の水準を維持しております。

デリバティブについては、契約の相手方の契約不履行から生じる信用リスクにさらされていますが、これらは信用度の高い金融機関を相手方とすることで、リスクを軽減しております。

### 金融商品の公正価値

金融商品の公正価値は、入手可能な市場価格又は他の適切な評価方法によって算定しております。金融商品の公正価値の見積りに際して、当社は最適な判断をしておりますが、見積りの方法及び仮定は元来主観的なものであります。従って見積額は、現在の市場で実現するかあるいは支払われる金額を必ずしも表わしているものではありません。金融商品の公正価値の見積りにあたっては、次の方法及び仮定が採用されております。

- ・現金及び現金同等物、受取債権、社債(1年以内償還分)及び短期借入金、支払債務：  
満期までの期間が短いため、公正価値は概ね帳簿価額と同額であります。
- ・有価証券、投資有価証券：  
活発な市場のある国債、株式及び公募投資信託等の公正価値は、公表されている相場価格に基づいております。活発な市場のない負債証券及び私募投資信託等については、直接的又は間接的に観察可能なインプットを用いて評価しております。
- ・預り保証金：  
変動金利の金融商品であるため公正価値は概ね帳簿価額と同額であります。
- ・社債及び長期借入金：  
社債及び長期借入金の公正価値は、公表されている相場価格、又は貸借対照表日における類似の資金調達契約に適用される利率で割り引いた将来のキャッシュ・フローの現在価値に基づいて算定しております。社債及び長期借入金の公正価値及び帳簿価額(1年以内償還・返済予定分を含む)は、前連結会計年度末において、それぞれ319,939百万円及び317,394百万円であり、当第3四半期連結会計期間末において、それぞれ317,712百万円及び315,245百万円であります。  
前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末における社債及び長期借入金の公正価値はレベル2に分類しております。なお、公正価値の測定手法に用いられるインプットの優先順位を設定する公正価値の階層については、注記12「公正価値の測定」に記述しております。
- ・デリバティブ：  
外国為替予約契約、通貨スワップ契約、通貨金利スワップ契約及び金利スワップ契約等の公正価値は、取引金融機関又は第三者から入手した市場価値に基づいており、観察可能なインプットを用いて評価しております。前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末におけるデリバティブ資産の公正価値及び帳簿価額はそれぞれ1,829百万円及び5,347百万円であり、またデリバティブ負債の公正価値及び帳簿価額はそれぞれ6,831百万円及び6,553百万円であります。

## 1.2 公正価値の測定

基準書820は、公正価値の定義を「市場参加者の間での通常取引において、資産を売却するために受け取るであろう価格、又は負債を移転するために支払うであろう価格」とした上で、測定手法に用いられるインプットの優先順位を設定する公正価値の階層を、その測定のために使われるインプットの観察可能性に応じて次の3つのレベルに区分することを規定しております。

レベル1：活発な市場における同一資産又は同一負債の（調整不要な）相場価格

レベル2：レベル1に分類された相場価格以外の観察可能なインプット。例えば、類似資産又は負債の相場価格、取引量又は取引頻度の少ない市場（活発でない市場）における相場価格、又は資産・負債のほぼ全期間について、全ての重要なインプットが観察可能である、あるいは主に観察可能な市場データから得られる又は裏付けられたモデルに基づく評価。

レベル3：資産又は負債の公正価値の測定にあたり、評価手法に対する重要な観察不能なインプット

当社が経常的に公正価値で評価している資産及び負債は、現金同等物、有価証券、投資有価証券、デリバティブ資産及び負債であります。前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末における公正価値の階層は次のとおりであります。

	前連結会計年度末			
	レベル1 (百万円)	レベル2 (百万円)	レベル3 (百万円)	合計 (百万円)
<b>資産</b>				
現金同等物	-	369,429	-	369,429
有価証券				
社債	-	19,033	-	19,033
投資有価証券				
外国政府債	-	271	-	271
社債	-	1,998	-	1,998
株式	150,728	-	-	150,728
投資信託	21,764	3,016	-	24,780
短期デリバティブ資産				
外国為替予約	-	878	-	878
長期デリバティブ資産				
通貨スワップ	-	915	-	915
通貨金利スワップ	-	36	-	36
<b>負債</b>				
短期デリバティブ負債				
外国為替予約	-	1,054	-	1,054
通貨スワップ	-	399	-	399
通貨金利スワップ	-	2,186	-	2,186
金利スワップ	-	19	-	19
長期デリバティブ負債				
外国為替予約	-	295	-	295
通貨スワップ	-	884	-	884
通貨金利スワップ	-	95	-	95
金利スワップ	-	1,899	-	1,899

## 当第3四半期連結会計期間末

	レベル1 (百万円)	レベル2 (百万円)	レベル3 (百万円)	合計 (百万円)
<b>資産</b>				
現金同等物	-	274,693	-	274,693
有価証券				
社債	-	28,001	-	28,001
投資有価証券				
外国政府債	-	261	-	261
株式	147,990	-	-	147,990
投資信託	14,005	51	-	14,056
短期デリバティブ資産				
外国為替予約	-	666	-	666
通貨スワップ	-	3,197	-	3,197
通貨金利スワップ	-	791	-	791
長期デリバティブ資産				
通貨スワップ	-	236	-	236
通貨金利スワップ	-	445	-	445
金利スワップ	-	12	-	12
<b>負債</b>				
短期デリバティブ負債				
外国為替予約	-	1,647	-	1,647
通貨スワップ	-	344	-	344
金利スワップ	-	23	-	23
その他	-	649	-	649
長期デリバティブ負債				
通貨スワップ	-	898	-	898
金利スワップ	-	2,992	-	2,992

レベル1に含まれる資産は、主に上場株式及び公募投資信託であり、活発な市場における同一資産の調整不要な相場価格により評価しております。レベル2に含まれる資産及び負債は、主に譲渡性預金、社債、私募投資信託及びデリバティブであり、譲渡性預金、社債及び私募投資信託については、マーケット・アプローチに基づく活発でない市場における直接的又は間接的に観察可能なインプットを用いて評価しております。デリバティブ資産及び負債は、マーケット・アプローチに基づく取引金融機関又は第三者から入手した観察可能な市場データによって裏付けられたインプットを用いて評価しているため、レベル2に分類しております。

前第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結累計期間においてレベル3に分類された資産及び負債はありません。

前連結会計年度において当社が非経常的に公正価値で評価している資産は、減損損失を認識した有形固定資産であります。有形固定資産については見積将来キャッシュ・フロー等の観察不能なインプットに基づく割引現在価値法で公正価値を測定した結果、回収可能性がないと判断されたため、前連結会計年度において、3,968百万円の減損損失を認識しており、当該有形固定資産の全額を減損しております。減損損失は主として連結損益計算書の「売上原価」に含めております。当該有形固定資産は観察不能なインプットを用いて評価しているため、レベル3に分類しております。

当第3四半期連結累計期間において当社が非経常的に公正価値で評価している資産及び負債に重要性はありません。

### 1.3 金融債権の状況

#### 金融債権及びそれに関する貸倒引当金

金融債権は、債務者の財政状態や支払の延滞状況に応じて一括評価債権と個別評価債権とに分け、前者については過去の貸倒実績に基づいた引当率を、後者については個別の状況に応じた引当率をそれぞれ用いて貸倒引当金を決定しております。債務者の財政状態や支払の延滞状況に関する情報は、四半期ごとに収集しており、これらに基づいて著しい信用リスクにさらされていると判断された金融債権については、個別の状況に応じた貸倒引当金を設定しております。裁判所による決定等によって、回収不能であることが明らかになった金融債権は、その時点で帳簿価額を直接減額しております。

前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末における、1年以内に決済される営業債権を除く、金融債権に関する貸倒引当金の増減の明細及び貸倒引当金の内訳は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (百万円)	当第3四半期 連結累計期間 (百万円)
貸倒引当金期首残高	6,110	6,630
期中取崩額	1,348	1,709
期中引当金繰入( )	1,323	1,118
その他増減	545	263
貸倒引当金期末残高	6,630	5,776
内：個別評価	3,781	3,729
内：一括評価	2,849	2,047

前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末における、1年以内に決済される営業債権を除く、金融債権の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度末 (百万円)	当第3四半期 連結会計期間末 (百万円)
金融債権残高	234,810	238,965
内：個別評価	3,781	3,729
内：一括評価	231,029	235,236

当第3四半期連結累計期間における金融債権の売買の金額に重要性はありません。

#### 期日経過金融債権の年齢分析

当第3四半期連結会計期間末における、1年以内に決済される営業債権を除く、支払期日を経過している金融債権の内訳は次のとおりであります。

	当第3四半期連結会計期間末		
	31日超90日以内 (百万円)	90日超 (百万円)	合計 (百万円)
期日経過金融債権	2,197	8,058	10,255

#### 1.4 事業買収

当社は、再生医療製品の開発加速、再生医療の事業領域の拡大を目的に、iPS細胞を開発、製造する米国企業Cellular Dynamics International, Inc.（以下、「CDI社」と記述します。）を、当社米国子会社の下に設立された買収目的子会社（SPC）を通じて、CDI社の発行済普通株式に対し1株当たり16.5米ドルでの株式公開買付けを実施し、平成27年5月1日（米国東部時間）にCDI社を完全子会社としました。取得価額は33,040百万円であり、取得価額の配分が完了した結果、認識した資産及び引き継いだ負債は次のとおりであります。

	（百万円）
流動資産	3,786
有形固定資産	424
無形固定資産	14,980
営業権	22,848
流動負債	4,174
固定負債	4,824
取得した純資産	33,040

認識した技術関連の無形固定資産、顧客関連の無形固定資産及びその他の無形固定資産はそれぞれ12,970百万円、857百万円及び1,131百万円であり、償却年数は、それぞれ16年、14年及び約13年であります。営業権は、再生医療事業を含むインフォメーション ソリューションに配分しております。また、その構成は、主として将来の成長や当社既存事業とのシナジー効果となります。なお、当該営業権については、税務上損金算入することはできません。

買収によって取得した事業の取得日以降の経営成績は、当第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結会計期間の四半期連結損益計算書に含まれております。当該事業の経営成績は、当社の経営成績に重要な影響を与えないため、経営成績に関するプロフォーマ情報は開示しておりません。



また、前第3四半期連結累計期間における主な事業買収は次のとおりであります。

富士フイルム(株)は、再生医療製品の開発加速、再生医療の事業領域の拡大を目的に、平成26年12月18日に持分法適用会社であった(株)ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング(以下、「J-TEC」と記述します。)の新株予約権を行使し、3,600,000株を6,840百万円で追加取得しました。その結果、当社持株比率は50.27%となり、J-TECは連結子会社となりました。追加取得前に当社が保有していた持分の簿価は2,405百万円であり、追加取得時の相場価格により再測定した公正価値23,629百万円との差額21,224百万円を四半期連結損益計算書の「その他損益・純額」として計上しております。また、追加取得時の相場価格により再測定した非支配持分28,541百万円を連結貸借対照表へ計上しております。

取得価額の配分が完了した結果、認識した資産及び引き継いだ負債は次のとおりであります。

	(百万円)
流動資産	8,046
無形固定資産	662
営業権	50,805
有形固定資産	1,486
流動負債	545
固定負債	904
取得した純資産	59,550

認識した技術関連の無形固定資産は614百万円であり、償却年数は約15年であります。営業権は、再生医療事業を含むインフォメーション ソリューションに配分しております。また、その構成は、主として将来の成長や当社既存事業とのシナジー効果となります。なお、当該営業権については、税務上損金算入することはできません。

買収によって取得した事業の取得日以降の経営成績は、四半期連結損益計算書に含まれております。当該事業の経営成績は、当社の経営成績に重要な影響を与えないため、経営成績に関するプロ forma情報は開示しておりません。

## 1.5 セグメント情報

## (1) オペレーティングセグメント

当社のオペレーティングセグメントは以下の3つの区分であり、経営者による業績評価方法及び経営資源の配分の決定方法を反映し、製造技術、製造工程、販売方法及び市場の類似性に基づき決定しております。イメージングソリューションは、主に一般消費者向けにカラーフィルム、デジタルカメラ、光学デバイス、フォトフィニッシング機器、写真プリント用カラーペーパー・薬品等の開発、製造、販売、サービスを行っております。インフォメーションソリューションは、主に業務用分野向けにメディカルシステム機材、ライフサイエンス製品、医薬品、グラフィックシステム機材、フラットパネルディスプレイ材料、記録メディア、電子材料等の開発、製造、販売、サービスを行っております。ドキュメントソリューションは、主に業務用分野向けにオフィス用複写機・複合機、プリンター、プロダクションサービス関連商品、オフィスサービス、用紙、消耗品等の開発、製造、販売、サービスを行っております。

## a. 売上高

	前第3四半期 連結累計期間 (百万円)	当第3四半期 連結累計期間 (百万円)
イメージングソリューション		
外部顧客に対するもの	276,523	272,477
セグメント間取引	1,760	2,287
計	278,283	274,764
インフォメーションソリューション		
外部顧客に対するもの	683,173	700,559
セグメント間取引	1,629	1,363
計	684,802	701,922
ドキュメントソリューション		
外部顧客に対するもの	855,470	868,454
セグメント間取引	7,079	6,264
計	862,549	874,718
セグメント間取引消去	10,468	9,914
連結合計	1,815,166	1,841,490

	前第3四半期 連結会計期間 (百万円)	当第3四半期 連結会計期間 (百万円)
イメージングソリューション		
外部顧客に対するもの	107,586	99,439
セグメント間取引	585	739
計	108,171	100,178
インフォメーションソリューション		
外部顧客に対するもの	239,579	240,145
セグメント間取引	592	385
計	240,171	240,530
ドキュメントソリューション		
外部顧客に対するもの	285,107	275,842
セグメント間取引	2,454	1,752
計	287,561	277,594
セグメント間取引消去	3,631	2,876
連結合計	632,272	615,426

## b.セグメント損益

	前第3四半期 連結累計期間 (百万円)	当第3四半期 連結累計期間 (百万円)
営業利益		
イメージング ソリューション	17,412	26,495
インフォメーション ソリューション	56,445	61,693
ドキュメント ソリューション	73,218	67,898
計	147,075	156,086
全社費用及びセグメント間取引消去	22,650	22,166
連結合計	124,425	133,920
その他損益・純額	28,752	7,822
税金等調整前四半期純利益	153,177	141,742

	前第3四半期 連結会計期間 (百万円)	当第3四半期 連結会計期間 (百万円)
営業利益		
イメージング ソリューション	12,828	14,085
インフォメーション ソリューション	24,068	26,916
ドキュメント ソリューション	23,550	19,558
計	60,446	60,559
全社費用及びセグメント間取引消去	7,616	7,310
連結合計	52,830	53,249
その他損益・純額	24,540	3,894
税金等調整前四半期純利益	77,370	57,143

オペレーティングセグメント間取引は市場価格に基づいております。「b.セグメント損益」における全社費用は、当社のコーポレート部門に係る費用であります。

(2) 主要顧客及びその他情報

前第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結累計期間、前第3四半期連結会計期間及び当第3四半期連結会計期間において、単一顧客に対する売上高が連結売上高の10%を超えるような重要な顧客はありません。

ドキュメントソリューションでは非支配持分に対してオフィス用複写機とその他機器を販売し、また非支配持分より棚卸資産を購入しております。前第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結累計期間の販売金額はそれぞれ143,600百万円及び155,943百万円、購入金額はそれぞれ8,845百万円及び9,133百万円であります。前第3四半期連結会計期間及び当第3四半期連結会計期間の販売金額はそれぞれ47,570百万円及び46,394百万円、購入金額はそれぞれ2,192百万円及び2,903百万円であります。

非支配持分とのライセンス契約その他の取引に関連して、ドキュメントソリューションではロイヤルティ及び研究開発費等の費用を前第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結累計期間でそれぞれ10,610百万円及び10,906百万円計上し、また、前第3四半期連結会計期間及び当第3四半期連結会計期間でそれぞれ3,432百万円及び3,196百万円計上しました。

前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末における当該非支配持分に対する受取債権額はそれぞれ53,469百万円及び46,670百万円、支払債務額はそれぞれ6,027百万円及び5,843百万円であります。

## 2【その他】

### 中間配当

平成27年10月28日開催の取締役会において、富士フイルムホールディングス株式会社定款第36条の規定に基づき、第120期(自平成27年4月1日 至平成28年3月31日)の中間配当を次のとおり行うことを決議しました。

- |                             |                               |
|-----------------------------|-------------------------------|
| (1) 受領株主                    | 平成27年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主 |
| (2) 支払請求権の効力発生日<br>並びに支払開始日 | 平成27年12月2日                    |
| (3) 1株当たりの配当金               | 32.5円                         |
| (4) 中間配当金の総額                | 15,096百万円                     |

**第二部【提出会社の保証会社等の情報】**

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成28年2月9日

富士フィルムホールディングス株式会社  
取締役会 御中

### 新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 坂 本 満 夫

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 室 橋 陽 二

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 三 辻 雅 樹

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 須 山 誠 一 郎

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている富士フィルムホールディングス株式会社の平成27年4月1日から平成28年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成27年10月1日から平成27年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成27年4月1日から平成27年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び四半期連結財務諸表に対する注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」附則第4条の規定により米国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準（四半期連結財務諸表に対する注記2参照）に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、米国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準（四半期連結財務諸表に対する注記2参照）に準拠して、富士フィルムホールディングス株式会社及び連結子会社の平成27年12月31日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間の経営成績並びに第3四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。